『流浪の騎士』

ZZZZ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『流浪の騎士』

【Ｎコード】
Ｎ７７０２Ｑ

【作者名】
ｚｚｚｚ

【あらすじ】

記憶もなく旅を続ける騎士の話

或いは、“間宮　命”が辿るはずだった末路の話

本作品は、『水面の記憶』の作中で語られる話の抜粋です。

『水面の記憶』ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ３２７０ｎ／

あるところに、独りの騎士がいました。
その騎士には、過去の記憶が無い代わりに、
不思議な力があって、
自分以外が望んだ物は、何でも出せるし、
人が望めば、巨人並みの怪力も、
誰も思いつかない様な知恵も、出す事が出来るのです。
でもその力を使った後、
人から好かれると、体が白くなり、
人から嫌われると、黒くなると言う、
変わった特徴もありました。
ある時、夢の中で神様が現れて、
お前は善行を重ねると、天使に近づき、
悪行を重ねると、悪魔に近づくから、
自分の正しいと思う道を選んで、
進む様に言われました。
騎士は、ならば天使を目指そうと決めて、
旅を始めました。

騎士は、とある寂れた村に、立ち寄りました。
そこは、戦争により男達の戻らない山村でした。
村人の女達は、男達に帰ってきて欲しいと切に願い、
騎士はそれを叶える事にしました。
帰って来た男達を見て、村の女達はとても喜び、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかし、望んだ相手が現れる事に気付いた女達は、
自分の望んだ通りの男達を要求して来る様になり、

騎士はその願いも、同じ様に叶えてやりました。
女達の望んだのは、実在しない見た目も理想通りで、
自分達の代わりに働いてくれる、男達でした。
村の女達は、そんな理想の男達との、
情事に溺れてしまい、毎日仕事もせずに、
欲望のままに過ごす様になってしまいました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
もっと男が欲しいと喚く、女達から逃れて、
この地を後にしました。

次に騎士は、とある農村に、立ち寄りました。
そこは、凶作によって作物が実らず、
飢えに喘ぐ農村でした。
村の農民達は、貧しくて飢えていて、
食事も満足に出来ない状態なのを見て、
騎士は農民達に、力の付く食べ物を出してあげました。
飢え死に寸前だった農民達は、
与えられた食べ物を見て、とても喜び、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかし、騎士の出した食べ物を食べた農民達は、
未だ足りないと言って、更に要求してきました。
今度は、農民達が普段食べていた物を出してやると、
彼等は見向きもせず、こんな物は食えないと、
文句を言うばかりで、もっと美味しい食べ物をと、
際限なく求めて来る様になってしまいました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
もっと多くのご馳走をと叫ぶ、農民達から逃れて、

この地を後にしました。

次に騎士は、とある港町に、立ち寄りました。
そこは、貿易商人が行きかう大きな港町でした。
町の商人の中に、商売で騙された商人が居り、
騎士の噂を聞いたこの商人は、
このままでは、夜逃げしなければならないと、
訴えてきて、当座の金を工面して欲しいと、
騎士は頼まれました。
騎士は、この商人を救う為に、
抱えた借金を返せるだけの、お金を与えました。
騙された商人は、これで夜逃げしないで済むと、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかし、この救われた商人があちこちで話をした為に、
その話を聞いた他の商人達が、
次々と騎士の所へとやって来ては、
自分も騙されて、借金があると語る様になりました。
騎士は、尋ねてくる商人達の言う通りに、
必要だと訴える額のお金を、用意してやりましたが、
それは次第に高額になって行き、やがて適当な嘘で、
金を手に入れる者ばかりになってしまいました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
際限無く金を欲しがる、商人達から逃れて、
この地を後にしました。

次に騎士は、とある都に、立ち寄りました。
そこは、広い庭と豪邸が立ち並ぶ、
貴族達の住む都でした。

貴族達の中に、領地での税金の徴集が思う様に行かず、
万策尽きて、どうにもならなくなっている貴族が居り、
騎士の噂を聞いたその貴族は、
金策に喘いでいて、困り果てていると訴えてきたので、
騎士は、その資金になる様にと、
宝石を、貴族に与えました。
困っていた貴族は、これで我が領地は救われると、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかし、その財宝で豊かになった途端、
貴族は今までの必死の努力はしなくなり、
貰った宝石も私利私欲に浪費してしまい、
再び騎士へと、宝石を要求して来ました。
急に羽振りの良くなった貴族を見た他の貴族達も、
同じ様に騎士の所へと訪れるようになり、
中には、同じ貴族が何度も頼みに来て、
前の額では足りなかっただとか、
別の借金があったのを、忘れていただとか、
新たに理由をつけて来るばかりで、
皆、自分の力で解決しようとは、
しなくなってしまいました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
求めるだけで努力しようとしない、貴族達から逃れて、
この地を後にしました。

次に騎士は、とある砦に、立ち寄りました。
そこは、相次ぐ隣国や異民族の襲撃に晒されて、
疲弊した兵士達が駐屯する砦でした。
騎士の噂を聞いた、ある兵士が、

前の戦いで、自分の手柄を横取りされた事を訴えて、
手柄として与えられた地位や報酬を、
正当な権利を持つのは自分だから、
取り返したいと頼まれて、
騎士はその訴えを叶えてあげました。
兵士は、本来自分が得る筈だった地位と報酬を得て、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかしそうすると今度は、奪われた兵士が、
同じ様な事を言い始め、騎士はそれも叶えてやると、
この話を聞いた兵士達が、
次々と手柄や報酬の奪還を要求して来て、
奪い合いが起こりました。
奪われた者達は、奪った者へと怒りをぶつけて、
やがて喧嘩が発生し、それは騒動へと発展して、
終には暴動と化してしまいました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
自分の正当性だけを主張して、
相手に怒りをぶつけるだけの、兵士達から逃れて、
この地を後にしました。

次に騎士は、とある宮殿に、立ち寄りました。
そこは、この国の役人の集まる美しい宮殿でした。
騎士の噂を聞いた、役人のひとりが、
この国の為に為すべき事を、
利己的な理由で阻む役人がいて、
国益の為に、それを排除したいと、
騎士に申し出があって、騎士はそれを叶えて、
その相手を失脚させました。

役人は、これで国益が守られると感激して、
騎士に感謝しました。
この時、騎士の体は、白くなりました。
しかしこの役人の噂を聞いた、他の役人が、
同じ様に汚職や、買収や、癒着や、
独占の排除を求めて、騎士の力を頼り、
騎士はその訴えを、全て聞き入れて、
次々と高位の役人達を、失脚させて行きました。
やがて誰もが、自分の地位と財力に固執して、
自分よりも高い地位や、財力を持つ者を、
失墜させるのを、繰り返し始めました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
それに気づいた騎士は、これは正しく無いと悟って、
自分の利権の為に、邪魔な存在を、
蹴落とそうとしているだけの、役人達から逃れて、
この地を後にしました。

次に騎士は、とある城に、立ち寄りました。
そこは、この国の王様の居る大きな王城でした。
騎士の噂を耳にした、王様から、
謁見に応じる様にと求められて、
騎士は王様に会いに行きました。
王様は、周囲の隣国から攻め立てられていて、
悩んでいる事を、騎士に伝えました。
そこで騎士は、王様に力を貸して、
周囲の敵国との戦争で活躍して、
次々と敵国を撃破して行きました。
王の言う通りにすると、騎士の体は白くなりました。
やがて王様は、周囲の国々を平定して、
更に遠方にあった、脅威でも無い小国へ対しても、

次々と戦争を始めました。
この時、騎士の体は黒くなっていました。
その事を騎士が問うと、王様は、
小国もいずれ大きくなって、我が国の脅威になるから、
その前に先手を打って、倒しておく事が、
結果的には皆の為になるのだと、答えました。
これを聞いた騎士は納得し、体は更に白くなりました。
王様の率いる軍勢は、
次々と大陸の各地へ攻め入っては勝利して、
敵国を滅ぼして行き、
その版図を、大陸中に広げて行きました。
やがて、大陸中の国を滅ぼして統一すると、
今度は大艦隊を作って、海を渡り、
他の大陸への遠征を始めました。
その事を騎士が問うと、王様は、
海で繋がっていれば、いずれこの国にも襲って来るから、
その前に先手を打って倒しておく事が、
結果的には皆の為になるのだと、答えました。
これを聞いた騎士は納得し、体は更に白くなりました。
王様の率いる大艦隊は、
他の大陸の国々と、次々と海戦を行っては勝利して、
敵国を滅ぼして行き、
その版図を、世界中に広げて行きました。
やがて世界中の国を滅ぼして、世界を統一すると、
自分の国の、大臣や貴族や将軍を処刑し始めました。
その事を騎士が問うと、王様は、
私の意志に従わない者達も、
いずれ、この平和を揺るがす脅威になるから、
その前に先手を打って倒しておく事が、
結果的には皆の為になるのだと、答えました。

これを聞いた騎士は納得し、体は更に白くなりました。

やがてこの世界には、
王様に逆らう者は、居なくなりました。
王様は騎士に、お前のおかげで、
世界は平和になったのだと、告げました。
誰一人として、私に逆らう者も、背く者も居ない、
私にとって、理想的な平和な世界が、と。
この時の、騎士の体は真っ白で、
背中には、立派な翼が生えていました。
死人の様に青白い肌と、背中には黒い翼を生やした、
天使は天使でも、悪魔と変わらない、
堕天使となっていたのです。
騎士は、王様の口車に乗せられて、
王様の独善的な、偽りの平和を作る為に、
最後まで、騙され続けたのでした。
その結果、王様の統治の下で、
戦争も争いも無い、平和な世の中になりましたが、
それは圧政と恐怖による支配が蔓延して、
抵抗する気力を失った、王様以外の誰もが、
不幸な世界になってしまいました。
今頃になって、騙された事に気づいた騎士は、
王様を倒そうと望む人間を探しましたが、
もうこの世界には誰も、王様に挑もうと考える者は、
いなくなっていました。
王様への反逆を企んだ罪により、
今までの功績を剥奪されて、騎士は追放されました。
ここまでの展開は、全て王様の筋書き通りで、
王様は初めから騎士を騙して、
その力を、自分の為に使い尽して、

完全な支配が手に入った後は、
騎士を始末するつもりだったのです。

全てが、王様に仕組まれた通りになって、
何もかも失った騎士は、
終いには、反逆者として賞金首にされて、
追手から逃げ続ける、当ても無い逃避行を続けました。
そんなある日の夜、夢の中に再び現れた神様は、
堕天使となった騎士を見て嘆き、
何故お前は、堕天使になったか分かるかと問われて、
騎士は、悪い王様に騙されたからだと答えました。
それを聞いた神様は、失望して、
お前が堕天使になった理由は、そうではなく。
お前は、人間の望んだ事、欲望だけを叶えて、
正しく導く事をしなかったからだ。
欲する物を与えるのが、善行では無い、
逆境や苦難に耐えて、それを克服する力を与えるのが、
善行なのだ。
失敗したお前の帰るべき場所は地獄だ、この愚か者が！
と告げて、怒った神様は騎士を地獄へ落としました。

こうして堕天使と化した騎士は、
神様によって地獄へと落とされて、再び地上に戻る事なく、
地獄で苦しみながら、永遠に過ごしました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7702q/

『流浪の騎士』

2011年8月28日03時18分発行